

1 事業総括

平成29年度は施設事務費が増額改定となり、また措置施設繰越積立金を取崩して活用することにより、安定的な施設運営ができた。収入面においても施設事務費算定基準の月初において年間16名の超過入所を受け入れ、各区の需要に応えるとともに財源確保に努めた。

施設整備面では、建物改修後9年が経過し、外壁及び外構の劣化が懸念されたが、特人厚による外壁補修その他工事調査が平成29年度を通じて実施され、来年度改修の見込みとなった。またエレベーターの戸開走行保護装置取付工事も特人厚により施行され、安全面が強化された。

利用者の特性としては、退院後帰来先なしの入所理由が昨年度の18名(32.1%)から30名(57.7%)と急増、それに伴い精神障害や知的障害の等級の重い利用者が増加した。服薬管理の複雑化、途切れない医療との連携など、医療機関や地元保健所との連携をより一層強化した。

利用者支援においては、退院後直接入所の増加に伴い、担当ケースワーカーだけでなく看護師、医療ソーシャルワーカーなど医療関係者にも積極的な関与を求め、丁寧な調整を行った。入所後、生活のリズムを崩すことがないように、午前中の所内作業、午後のプログラムを日中活動の柱として積極的に推進した。所内作業製品「けやきブランド」は地元地域センターのほか、新たに近隣大学のイベントにも出店、新宿区勤労者・仕事支援センター受注センターにも登録を行い区内のネットワークに参画するなどけやきブランドの認知を高め販売促進に取り組んだ。

地域関係では、昭和53年の事業開始以来開催している地域連絡協議会において、「けやきランチ」再開の声が寄せられ、その足掛かりとして地域住民のサロンの居場所を提供する「けやきカフェ」を試行実施し、好評を得た。今後も良好な関係を継続し、地域福祉のニーズに応じていく。

〔利用実績〕

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	52	2	5	8	2	5	3	4	7	5	2	4	5
退所者数	53	3	5	7	3	5	3	3	7	6	2	4	5
月末在籍数	31.3	31	31	32	31	31	31	32	32	31	31	31	31
28年度	31.2	32	32	30	30	32	31	31	32	30	31	31	32

〔退所理由〕

(単位: 人)

	自 活	居 宅 移 管	入 院 除 籍	他 施 設 移 管	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居 帰 郷 ・ 親 族	拘 留 除 籍	死 亡	促 進 社 会 復 帰	そ の 他	合 計
29年度	0	21	9	11	8	3	0	0	1	0	0	0	53
28年度	1	21	8	14	4	1	0	3	0	0	3	0	55

2 主要目標に対する成果

(1) 女性特有の課題へのきめ細やかな対応

福祉事務所・医療機関・子ども家庭支援センターなど関係機関と連携を図り、利用者が抱える個々の課題にきめ細やかに対応した。

(2) 組織全体で支援する体制の継続

職員間で情報共有を綿密に行い、組織全体で支援した。利用者状況変化への早期対応やトラブル防止に結びつき、職員の抱え込み防止にも効果を上げた。

(3) 所内作業と日中プログラムの充実

基本的な生活習慣の回復、生活意欲・社会参加意欲の向上に向けた集団プログラムをして実施し、所内作業製品は近隣大学のイベントで初めて販売し好評を得た。新たなプログラムを導入し、日中活動のメニューの多様化に努めた。

(4) 地元町会を中心とした地域との良好な関係の継続

町会行事に積極的に参加したほか、地域公開講座やサロンの居場所を提供する「けやきカフェ」を試行実施した。

3 運営管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・行事、会議、職員研修などについて事業計画どおりの内容・回数を計画的に着実に実施した。 ・各区の緊急需要に即応できるように速やかに居室整備し、迅速に入所を受け入れた。(年間 11 名) ・毎朝の引継会議で利用者の細かな状況変化等の情報共有を徹底しチーム支援を推進した。 ・個別自立支援計画に基づく計画的な支援を実践し、職員会議等で進捗状況を確認、共有した。 ・所内作業(手芸品作製)、「けやきプログラム」(教養講座等)による日中活動の機会を推進した。 ・ステップハウス 2 室(4 名)を活用して地域生活移行訓練を行った。 ・嗜好調査(年 2 回)結果の献立への反映、アレルギー・治療食等にもきめ細やかに対応した。 ・給食委託業者との定期連絡会等を通じて衛生管理を徹底し安全な給食提供を行った。年末の厨房火災後は本社責任者との再発防止策を協議し、合同防災訓練を開催、防災意識の向上に努めた。 ・利用者の誕生日月に「誕生日会食」を実施、祝福されること通じて自己肯定感の向上に寄与した。 ・防火防災訓練を計画に沿って実施した。 (火災想定 5 回、地震想定 2 回、水災想定 1 回、夜間想定 4 回、放水訓練 2 回) ・意見箱等に寄せられた苦情(喫煙室の使い方に関すること 1 件、他利用者の入浴方法に関すること 1 件、職員に関すること 2 件)については、苦情解決制度に沿って丁寧に申立者と面談し、理解を得る形で解決することが出来た。 	
4 保健衛生・環境整備	
<ul style="list-style-type: none"> ・入浴やシーツ交換・布団乾燥など、事業計画どおりの回数を着実に実施した。 ・個別の事情に配慮し、個別入浴対応も適宜実施。入浴が滞りがちな利用者に適宜声掛けをし、清潔保持の指導を強化した。 ・嘱託医 3 名(精神科医 2 名、内科医 1 名)による健康相談を月 4 回実施し、利用者の体調悪化を早期に相談し、重症化を防いだ。 ・事務所で服薬管理をしている方が常時 9 割いるため、薬剤師会から薬剤師を招き学習会を開催した。服薬管理は職員全員で把握、確認し、利用者の服薬を着実に実行した。 ・毎朝近隣公園での町内老人会主催のラジオ体操に参加、定期的な運動実施を推進した。 ・血圧・体重測定を毎月実施、外部講師を招いての健康教室の開催により健康管理意識を醸成した。 ・定期健康診断(年 2 回)、インフルエンザ予防接種等により感染症予防を実施した。 ・クリーンデー(月 1 回)により各居室の利用状況、衛生状態を確認し適宜必要な支援を行った。 	
5 施設の社会化(地域交流事業及び施設機能強化推進事業)	
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣障害者施設の福祉ネットワークに参画し施設行事に参加・協力した。(つながるカフェ等) ・地域センター祭り(3 回)や法人他施設の地域行事等で「けやきブランド」の展示・販売をした。 ・地元町会の夏祭りに出店団体として参加・協力した。(利用者・職員・実習生合わせて 19 名) ・地域避難所開設訓練 4 名、一斉地域清掃に利用者(8 名)と職員(2 名)で参加した。 ・地域住民も対象とした公開講座を開催(年 2 回)し 9 名の参加があった。 ・施設連絡会を福祉事務所向け(23 名)と、関係医療機関向け(14 名)の 2 回開催した。 ・社会福祉実習生(4 校 計 4 名)と特人厚短期派遣研修生(1 名)を受け入れた。 	
6 福祉サービス第三者評価 評価結果	
評価機関：特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構	実施期間：H29. 9. 29～H29. 11. 5
全体の講評： 特に良いと思う点 ① 女性福祉の視点から利用者支援のあり方を充実させている ② 処遇困難な利用者であっても多様な社会資源を生かし、自立支援を進めている ③ 町会行事への積極的な参加や地域公開講座の開催など、地域との良好な関係を維持継続している さらなる改善が望まれる点 ① 疾病や障害を持つ利用者への、総合的な支援の充実が望まれる ② 防犯対策のより一層の取り組みを期待する ③ メンタルヘルスの取り組みを継続的に、さらに充実させていくことを期待する	施設コメント： 当年度の主要目標として掲げた「利用者支援の充実」「地域との良好な関係」が高く評価された。利用者アンケートでも食事では 81%満足と回答するなど非常に高い満足を得ている。改善が望まれる点の①については他施設や関係機関と情報共有を図り対応したい。③については、チーム支援の推進と組織全体でメンタルヘルスの取り組みを充実させていく。